



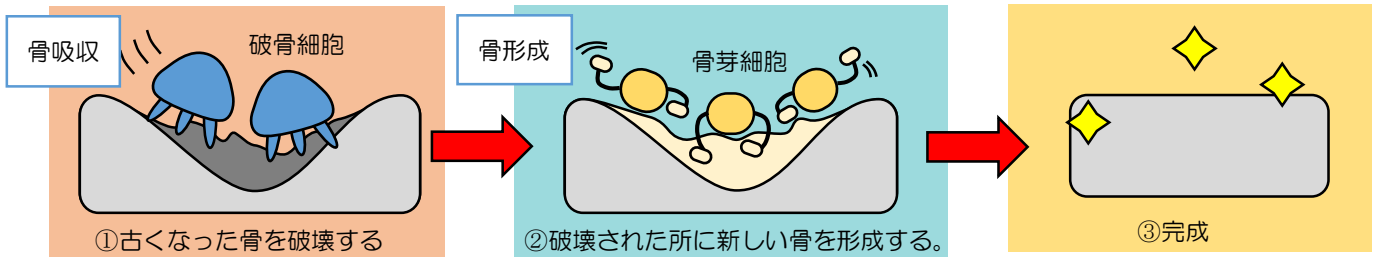
おくすり通信

No. 49 骨代謝と薬

こんにちは、薬剤科です。今回は骨粗鬆症の概要、薬がどのように作用しているのかをご紹介します。

《骨吸収・骨形成》

骨代謝では**破骨細胞**と**骨芽細胞**の2つの細胞が関係しています。**破骨細胞**は**骨吸収**を、**骨芽細胞**は**骨形成**を担う細胞です。この骨吸収と骨形成のバランスが崩れ、**骨吸収が優位**となると骨密度が低下し、骨粗鬆症を引き起こしやすくなります。骨代謝のサイクルは骨吸収が2~3週間、骨形成が3~4ヶ月となります。



《骨粗鬆症とは》

骨粗鬆症は**閉経後の女性に好発する疾患**で、**閉経による女性ホルモンの分泌低下**が大きな原因です。日本では約1000万人以上の患者がいると推定されており、高齢化に伴い増加傾向にあります。

女性ホルモンは破骨細胞を抑制する作用をもつため、分泌が低下することにより**破骨細胞が活発になり骨吸収が促進**されます。**骨芽細胞による骨形成が間に合わないこと**で**骨密度が低下**し、骨粗鬆症につながります。

骨折がなくても
骨粗鬆症の可能性あり！

骨粗鬆症の診断基準	
脆弱性骨折あり	椎体、大腿骨近位部に骨折がある。骨密度がYAMの80%未満。
脆弱性骨折なし	骨密度がYAMの70%以下。

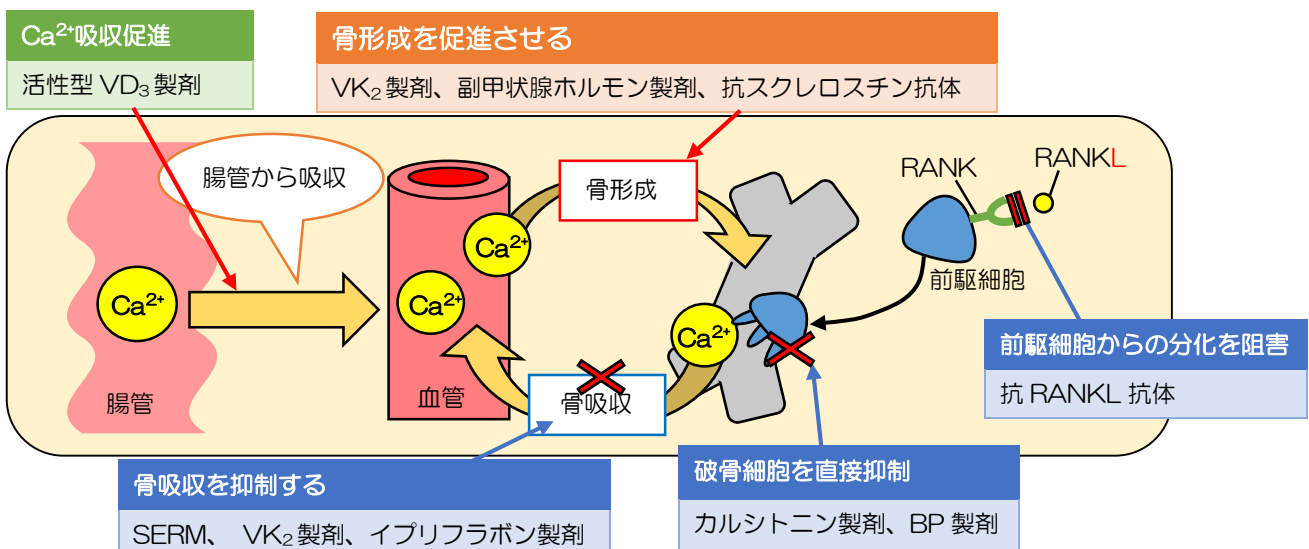
転倒のような軽微な外力で生じる骨折

若年者の平均骨密度

《骨粗鬆症治療薬》

骨粗鬆症治療薬には、**骨吸収抑制薬**、**骨形成促進薬**、**骨(Ca)代謝調整薬**が存在します。

破骨細胞を直接抑制するBP製剤が骨粗鬆症の第一選択薬とされており、多くの方が服用されています。



そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。